近代徳山回顧展

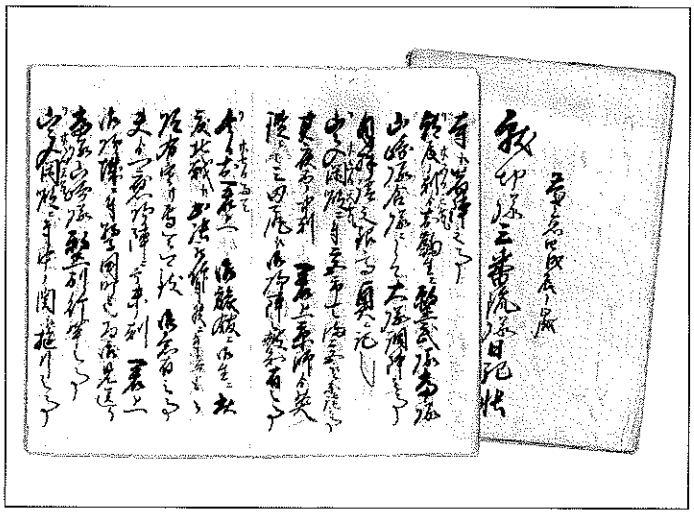
—明治・大正・昭和初期—

明治期の徳山（1868年—1911年）

1　戊辰戦争と徳山

慶応元年に結成された山崎隊は、明治元年に奥州の官軍応援の命を受け、献功隊とともに秋田方面に従軍し、土崎港に上陸して後青森に転進した。翌2年4月に北海道に渡り、江差・福山・矢不来の幕府軍を破り、5月には五稜郭の攻略戦に参加した。

その年の6月に東京に凱旋し、行政官の感状を受け、7月に徳山に帰った。



『北行日誌』及び『献功隊三番銃隊日記帳』

その折に犠牲になった人々の墓碑が、富田の護国神社の境内にある。

また五稜郭の攻略戦に従軍した絵師朝倉震陵が、当時の模様を記している。

2　徳山藩の終焉—有終の美を飾る—

明治2年1月20日に長州藩主毛利敬親は、薩摩藩主島津忠義・土佐藩主山内豊範・肥前藩主鍋島直大と連署して、版籍奉還を朝廷に奏上した。諸藩もこれに倣うものが多く、朝廷は6月17日に許可し、府・藩・県三治の制で全国を統一した。

徳山藩主元蕃は、この日に徳山藩知事に任命されたが、小藩を維持することは王政復古の趣旨に沿わないものとして、明治4年5月15日に徳山藩を廃止して、山口藩への合併を上表書で請願した。

元蕃はこの上表書と家中の士への諭告書の中で、廃藩の趣旨を明らかにしている。翌6月に朝廷は、これを許可し、7月14日に廃藩置県を断行することによって封建制度の一部が取り除かれることになった。

徳山藩の廃止は、このことへの先鞭をつける役割を果たしたもので、徳山藩は有終の美を飾ったといえよう。